

重点課題	重点目標	自己評価		学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方針
		評価指標と活動計画	評価		
基本的な生活習慣の確立	(全校レベル)	評価指標	評価指標の達成度	総合評価 (評定) B (所見) 継続的に全教員が関わり、頭髪服装指導を徹底した効果がみられた。いじめ・暴力等は被害者の立場に立ち、全ての事案で早期解決できたが、今後はそういう事案が発生しないよう人権意識を高める指導を続けていく必要がある。また、まだ一部に社会生活をしていく上でのマナー(挨拶・行動)が欠けている生徒がいるが、全職員で根気よく指導を続けると共に、保護者との連携を深めていく。	○生徒の現状や抱える問題に対応した人権HRを設定し、より人権意識を高める指導を進める。 ○メディアリテラシーを身につけさせSNS等の適切な使用方法を指導する。 ○あらゆる場面を利用し、交通安全・マナーの再認識を図る。 ○命の教育の中でいじめ、暴力を絶対しない・許さない指導を行う。 ○常にHR・教科・学年・課の連携を図り、情報を共有し効率的な指導をする。 ○授業の受け方(態度や課題提出等)などの入門講座を徹底することにより、「聞く」「話す」等の態度や期日を守る態度を身につけさせるなど、今後も基本的な生活習慣の向上を図る。 ○担任や学年団だけでなく、教科担任も含めての情報交換会を増やす。
	1)生徒指導を徹底し、基本的な生活習慣の確立に努める。	1)頭髪服装指導を毎月実施	1)頭髪服装指導の毎月実施率100%		
	2)自他の人権を尊重する態度を育成する。	2)-1人権学習HRを各学年7回実施	2)-1人権学習HR7回 各学年達成。SNS等をめぐるトラブルに対応したHR活動を適宜した。		
	3)交通安全を指導し、命の大切さを教育する。	2)-2いじめ・暴力行為をなくす。	2)-2いじめに繋がる事案もあつたがいずれも早期発見、被害者の立場に立った毅然とした指導により解決できた。		
確かな学力の育成	(全校レベル)	評価指標	評価指標の達成度	総合評価 (評定) B (所見) 今後も教材の工夫・精選をし、授業方法の改善に取り組むとともに、わかる授業を展開できるようにしていきたい。学び直し教材「smile」については、昨年度の反省に立ち、大幅な改訂を行った結果、計画通り活用できた。しかし、多様化する生徒のさらなる基礎学力の向上のためには、生徒の興味・関心も考えた教材を選び、自ら学ぼうとする姿勢の育成が大切である。調理実習・実験や被服実習においては生徒が主体的に参加し、技術の向上が見られた。	○多くの選択科目や少人数授業など、単位制を生かした教育課程が充実している。 ○部活動をもう少し活性化してほしい。指導者には経験者を置いて欲しい。 ○自転車のマナーが悪い。携帯電話使用や音楽を聴きながらの運転は危険である。
	1)基礎学力の向上を図る。	1)授業内容の研究(教科会・公開授業) 各学期1回	1)初任者研修を兼ねる形で公開授業を実施、教科会で今後の指導方針の確認をした。学び直し教材「smile」は、計画的に活用できた。また、文科省訪問において、特に英語の研究討議ができた。		
	2)わかる授業を展開する。	2)授業評価アンケートで生徒の満足度80%以上	2)すべての教科で生徒の満足度80%以上、90%を超える教科(国・歴・公・体・芸・家)もあつた。		
	(下位組織レベル)	活動計画	活動計画の実施状況		
進路指導の充実	(全校レベル)	評価指標	評価指標の達成度	総合評価 (評定) B ホームルームでの進路指導は、生徒の実態に即して実施できた。オープン・キャンパスは、就職希望生徒の増加により参加者が減少した。今後も、生徒の多様な進路希望に応じていくため、大学入試にも就職にも適した教育課程を編成していく必要がある。また、とすれば生徒指導に時間をとられる中、生徒と教員が進路について、じっくり話し合える場所と時間をどう設定していくかも課題である。	○学年が上がるにつれ、科目選択や将来の進路について家庭でも話をするようになっていく。進路指導をもっと活発にして欲しい。2年生ぐらいまで、まだまだ現実的に考えていないのではないかと。 ○1年でのインターンシップは職業観の育成に有意義である。今後も続けて欲しい。 ○就職希望者に対して手厚い指導をしてもらっている。 ○高校で学んでいる教科の学習内容が、将来の職業にどのように繋がって行くのか提示し、進学先でさらに専門分野の学習を続けられるような進路指導をお願いしたい。
	1)多様な進路を希望する生徒の特性や個性に応じた進路指導を充実する。	1)各学年とも年2回以上の進路ガイダンスを実施	1)校内の進路ガイダンスは予定通り実施できた。校外でのガイダンスは、オープン・キャンパスが主流となってきたため、参加者は減少した。		
	2)教育課程を充実する。	2)学校評価アンケートで、教育課程の充実度を70%以上、生徒対象の科目選択説明会実施、学年団による科目検討会実施	2)ほぼ充実している以上の割合は、生徒約75%、保護者約80%、教員約81%であった。		
	(下位組織レベル)	活動計画	活動計画の実施状況		
進路指導の充実	①進路相談の機会の増加	①放課後等にも進路の個別相談に応じる。個々の進路に応じた課題を準備する。	①進路希望に応じた対応は概ねできたが、参加人数を増やす必要がある。1. 2年生への対応ができていなかったが、3年生では放課後や休憩時間を利用して個別面談を適宜実施したり、部活動顧問とも連携し、希望進路を実現したケースが多かった。		
	②進路別の補習授業	②進路別の補習参加人数が5割以上を目ざす。	②補習参加人数は平均して5割を上回った。		
	③生徒、保護者の希望進路の実現	③担任による電話連絡や面談等をする。学校行事で進路に関する情報を伝える。PTA研修会で県内外の大学・専門学校訪問を行う。	③保護者の要望により、今年度も大学と専門学校の2校を訪問した。また進路保護者会も実施し、必要に応じて個別面談も行った。PTA家庭研修では企業訪問を実施し、保護者に対し、子供が就職する際の心構えを担当者からアドバイスしてもらった。		
	④進路関係図書の出借促進	④進路関係図書の特集展開する。関連図書の貸出数をのべ15冊以上にする。	④進路関係図書の貸出しは、目標冊数以上となった。		